

A-98 近世養生思想展開下における食品食物摂取の動向(第1報)

和洋女大文家政 松田久子、石川松太郎、筑波大坂戸高 ○石川尚子
三輪田学園 中込みよ子

その2 一妊産婦を対象に

目的、「その1」の目的をさらにのべたように、近世になってから数多くの養生書が出版された。人間尊重の思想にうらうちされたこれらの養生書では、単に病人だけではなく、妊産婦や幼児や老人にまで、細かい注意が払われるようになったのである。とりわけ、生命の誕生に深くかかわる妊婦や産婦の食生活については、どのような配慮がなされたか、従来、女性の地位の低さとまじしさから、あまり意を払われなかったと言われている妊産婦たちについて、収められている食品食物摂取に関する記事を抽出し、その内容を分析して、特徴と思われるところを考察してみたい。

方法、『和歌食物本草』をはじめ、『食物和歌本草』『庖厨備用倭名本草』『本朝食鑑』『日用食かがみ』『養生主論』などを例として、妊産婦に効果があるとしてすすめている食品食物、また、害があるとして禁止している食品食物を抽出し、その内容を分析した。この際特に、それぞれの場合の食品食物の種類、その食品食物を取りあげた理由や摂取する時の注意点などに肉する記事に注目して研究作業をすすめた。

結果、分析の結果、資料には、啓蒙書としての限界があるにもかかわらず、妊産婦に関する食品食物摂取の記事について、歴史学および家政学の観点から、いくつかの興味ある結果が得られたので、発表する。